

平成22年度 第2回いわて思春期研究会講演会 感想

- いろいろな関わりや支援が考えられると思いますが、基本は「まわりの人間がその人(大人でも子どもでも)に真剣に何が手助けできるかを考え、手を差しのべてあげること」なのだと思います。小さな単位から大きな単位まで、それができれば少しでも社会は善くなっていくのではないのでしょうか。
- 八木先生のお話、興味深くお聞きすることができました。発達の障がいがあるベースにあって、困っている子供とその親へどう支援していくか。明確な答えは見つけることはできませんでしたが、自分が気づいたことに対して、真剣に子どもを観察し、自分に何ができるか考えながら、関わりにある資源を使って取り組んでいくことしかないということに、改めて気づきました。八木先生、そしてスタッフの方々に感謝します。「診断」について「告知」について難しい問題ではありますが、「どうなんだろう」と考えています。
- 「発達障害」をめぐる話題はぜひ講演会で取り上げて頂きたいと思っていたので、そして少年刑務所の現状(青少年の抱える背景など)に非常に興味があったので、今回八木先生のご講演を聴くことができるとても有意義でした。ありがとうございます。全体的に興味深く印象に残りましたが、特に印象深かったこととして2点あります。1点目は「育ち直し」のチャンスは人間は誰にでもあり、そのチャンスは人との関わりの中でたくさんあること。そして学問として研究されるずっと前から、人間はその営みを自然にやっけてきているのだということです。専門的なこととして構えるのではなく、そうしたチャンスを生かせるように、人と真剣に向き合っていきたいと思います。2点目は他者に自分のことを言葉で伝えることを苦手とする子どもとおしゃべりする時には、自分なりに言葉を与えてあげることで、自分表現のサポートをしたいなと思えたことです。他者との関係づくりに希望を見出せるように支えてあげたいなと実感しました。
- 赤ちゃんの誕生に関わる仕事なので、改めて母子関係の成立のところにいかに積極的に介入すべきか課題の大きさに気づかされた。他の職種の方々と話ができたり話が聞けて、有意義な時間を過ごすことができた。
- 教育現場にいる者です。発達障害の生徒、又は発達障害を疑われる生徒が問題を起こすことは多く、我々教師も困ってしまう。しかし、ともすると困っている我々や親に注目しがちだが、当の本人が一番困っていることを忘れがちだと強く反省しました。また専門的知識がなくても、“冷静な愛情”を持って、“真剣に関わる人”がいれば救われるという言葉をかてに、仕事を頑張っていきたいと思います。

- ・ 思春期の問題の根底には家族問題、社会の問題などがあり、複雑にからみあっている事がわかった。誰がどんな役割を持ち、何をするかではなく、一人ひとりの対象と真剣に向き合っていくことが大切。まずそこからやってみようと思いました。 M・T
- ・ 先生がこの分野で本気で向かい合っている事がお話から伝わってきました。私は小学校の教員をしておりますが、今回のお話がとても刺激であった反面、**risk factor** があまりにも多く、今後どのようにしたら良いか戸惑う自分に気づかされました。自分でも少しづつ感じてはいましたが、発達障害や少年院に行っている子達は、学び方が分からない、理解の仕方が分からないという彼らの現状を、もっと広く認識することが大切だと思いました。子どもをしかる前に、一番困っているのはしかられている目の前の子であることを、深く考える必要があると思いました。内容の濃いお話が聴けて良かったです。ありがとうございました。 古館小 阿部
- ・ 自分の子育てについて悩むところがあったけれども、深く考えすぎていたところがあったかもしれない。逆にもっと単純なところで考えてもいいかもしれないと思った。子供とよーく遊ぶ、話をじっと聞いて、一緒に色々考えてみる、とか。すごく勉強になりました。
- ・ 乳児期の基本的信頼関係の構築が大切だということを再度認識しました。様々な環境によって生きづらくなっている子ども達や、またその保護者を自分なりの力でなんとか方向転換の手助けをできればと思っております。本当に分かりやすい内容でした。ありがとうございました。
- ・ 遺伝的要因によるもの、遺伝的なもの+環境によって増強したもの、生得的には問題のない環境によって作り出されたものと“発達障害”“発達障害症候群”はとても幅広いものだとわかりました。知識がなくても、専門家でなくても、やれることはたくさんあるとわかったので、冷静な愛情を持っていろんな人と関われるようになりたいと思いました。またエリクソンの発達段階で、そのときの課題が達成できなくても、育ち直し、積み直しはできるということ、未来は変えていけるということを学ぶことができました。
- ・ 手間と時間はかかるが「ひとりひとりを見る視点」・・・その子に何が今必要なのか・・・ひとりひとりと向き合って を目指して努力していこうと思った。
- ・ 八木先生のお話を聞いて、人間形成において環境因子の影響の大きさをあらためて感じました。日頃助産師として子育て支援にかかわっており、親への援助の中に今日のお話の一つ一つを取り込んでアドバイスや子育ての術を伝えていきたいと思います。

- ・ 自分の知識を再確認出来たことと、沢山の学びをいただきました。“司法現場から見た発達障害”というご講演については、初めての受講であったので、どっしりと重い、重かったという感想です。しかし、自分が誰と共にどの部分の支援が出来るのかを真剣に考える機会になりました。ありがとうございました。
- ・ 県立大学で学生をしております。普段は心理学を専攻していて、エリクソンの発達段階における愛着の形成の重要性を改めて実感しました。順調に課題を達成していった人でも例えばID確立がずっと出来ずにある意味の失敗に至ってしまうケースもあり、しかししっかりと築き上げた愛着による信頼感から立ち直ることが可能である場合もあると学びました。逆に愛着形成不全であったために積み上げができていなくとも、人間の育ち直しの力は思った以上に私は強いと思っています。それに関わる人材としての成長や学びを今日は得られたと感じています。最後に素朴な疑問をぶつけてしまい、申し訳ありません。(笑) さらに学びを深めたいと感じています。(書いてる途中でもっと感想が湧いてきて、脈絡がなくなりました。すみません!) 普段は社会福祉学部で様々な課題を持つ人々のニーズを見極め支援していくSWについても学んでいますが、その中で「この支援は嫌だ」等の表面の希望にとらわれるのではなく、その人に必要なことを見つけるという点を重視しています。C1の自由や尊重を考えてしまうと難しい点ではありますが、共通点等考えながらやっていきたいと思えます。

岩手県立大学3年 玉早穂子

- ・ 世界中で安全な国と言われている日本の国情は良いことだと感じていますが、八木先生がお話して下さった現状と経過分析は大変勉強になりました。ありがとうございました。実践現場で生かしたいと思えます。 滝沢村 田代寛
- ・ 私は現在在学青少年指導員として地区の小中高警察等関係機関を訪問し、児童生徒の不登校・問題行動(非行等)についての相談や助言をする仕事をしております。今日の八木先生のお話を伺って、発達障害と子育ての問題行動に及ぼす影響・メカニズムがたいへんよく分かりました。このような研修や協議が学校経営や教育活動の中で早いうちに生かされ、児童生徒の指導や関係機関の支援に役立てて頂きたいと思えます。特に問題の早期発見と早期対応(母親やその家族)に生かして頂きたいものです。私も今回の研修を学校訪問や関係機関との連携に生かしていきたいと思っております。本日は貴重な資料とともに、たいへん有意義なお話をありがとうございました。(多田)
- ・ 「発達障害」について理論的に学んだことはありましたが、具体的にいろいろな角度からの講義を受け、大変勉強になりました。とても充実した時間を提供していただき、ありがとうございました。

- ・（離婚家庭が多くなったことに）“自己実現”という言葉に踊らされているのではないかというコメントがありました。“自分探し”という言葉にも同様の感じ方をしていたので、とても共感できました。グループワークの中で、自分は親に愛されていると感じている生徒が少ないという調査があることにも、その昔そのような質問（アンケート）を受けたことはなかったし、その当時その質問を受けたら、私はどう答えただろうかと思います。愛されている実感がなくても十分すくすく育ったような気がします。**目の前の生徒（子ども）をよく見ること** 私に今できることを確認した会でした。ありがとうございました！！
- ・ 12月にも八木先生のお話を伺いましたが、今回は資料もあり、よりわかりやすかったと思います。発達に関わる様々な側面を思う時、何を、どこまで、どのように、どんな人が、どんな立場に関わることができるのか、また関われるのか、と思います。より広い支援の場があればと思います。
- ・ 発達障害と愛着形成の深い関わりがあることを学ぶことが出来ました。親と子の関係により、認知・知的・感情・行動など様々な側面からの発達につながっていることが理解出来ました。私は養護教諭を目指しているため、教育の観点で今回の講演会を聴かせて頂きましたが、幼少期に獲得すべき「基本的信頼」が不十分な子供に対して、学校現場で何が出来るのか、どう対応するのかを考えていました。それを考える上で頭に浮かんだのが、先日学校で学んだ道徳の授業であり、今の学校現場で行われている「なぜ人を殺してはいけないの？」という『悪』を前提とした道徳教育ではなく、「人を殺すのは善いこと悪いこと？」という投げかけによる善悪の判断をする能力を育てる授業の重要性が納得できました。一人ひとりを見る上での基本的な「真剣に向き合うこと」の大切さを感じる事が出来ました。 岩手県立大学看護学部 鈴木はつき
- ・ 私立高校の教員です。（今日の参加は本校養護教諭から教えてもらったことがきっかけでした。）参加させていただいて本当に良かったと思います。八木先生のお話は（ちょっと早口でしたけれども）とても分かりやすく、心にひびいてきました。これから実践できるようなポイントも沢山学ぶことができました。（うまくできるかどうかは？ですけど・・・）資料は学校に帰ったら欲しい方にはコピーしてあげようと思います。できれば機会がありましたら、先生のお話を仲間ともう一度お聞きしたいと思います。本当にありがとうございました。
- ・ 今日の研修会で学んだこと・・・「本人がどう思っているかという視点」で真剣に関わることがベクトルがプラスに向くことにつながる・・・このことを心しながら、子ども達と向き合っていきたいと思います。

- ・ 犯罪に至る少年に視点を置いての講演でしたが、八木先生が施設に入ってじっくりとその少年達と生活され、調査・研究された報告は非常に貴重でした。心が基本的信頼感を持っていけるように育つことの重要性を理解できました。社会が育て直す機能をもたねばなりません。家庭・学校・企業等。
- ・ 私は女性問題、どちらかといえば被害者や母親やその他女性全般の立場の中に日頃います。特にDVの被害に遭っている女性にとっては、子育ては大きな負担になっていると思います。子供にとって母親だけに責任を押しつけないようにして欲しいと思いました。また思春期研究会を立ち上げたことは、これからの岩手の子ども達にとって心強いことだと思います。私も大人になってから学ぶことの楽しさを知りました。ひとりひとりの子ども達をほめてやりたいと思います。
- ・ 思春期の子ども達と関わっていると、乳幼児期の親（養育者）との信頼関係がいかにか大切であるか、今日のご講演から学ばせていただきました。子どもは成長するもの！！「その子に何が今必要なのか」今後とも真摯に向き合い、共に育っていきたいと思います。未来に希望を持って……。本日は有意義な講演ありがとうございました。
- ・ 産まれた時は同じ子ども。ただ妊娠・産褥成長過程で大きな差が出てくると思った。（愛着行動の大切さ）子育ての振り返りができ、今度は未来の孫夫婦の支援をしようと思う。八木先生の言葉はすごく心に残り、今後の活動に役立てたいと思う。未来は変えられるの言葉は印象深い。
- ・ 普段関わっている子ども達（小1）の中に、学習障がいやADHDの子どもがいます。でもそう診断されていない子どもの中にも全体指導で理解が難しい子ども、感情のコントロールができない子どもがいます。気になったのは、嬉しいという感情が表に出ない子どもでした。今は改善されて嬉しい時に笑うようになりました。今は小学1年生の小さい気になる部分が、これから年齢が上がるにつれて問題として大きくなっていくんだと思いました。問題として大きくなる前の今、解決していく必要があると感じました。「子ども達をよく見る」ことは、その子どものことだけでなく、家庭などの環境も見ることだと学びました。教師として未熟なので、どう対処していいか困ることがたくさんあります。でも「あなたがたいせつ」という気持ちを忘れず接していきたいです。
- ・ 知らない言葉や知らない背景をたくさん教えて頂きました。自分の子育てを振り返り、反省もしました。また職場で子ども達、保護者達に対しての対応の仕方も考えさせられました。グループでさまざまな職場のお話を聞き、大変なお仕事があるなあと思いました。私もできることをがんばっていこうと思いました。ありがとうございました。

- 時間が足りず少し消化不良気味です。これは私の内の問題で、内容をすみやかに理解できず、もたもたと考えていたせいだと思います。とても深い課題であり、もっと勉強を続けてゆこうと思っています。本当にありがとうございました。
- 質問ができなかったのでしたいと思います。危険因子の1つに多子というところがございましたが、何人以上の方で何番目に多いのかという事です。その理由も知りたいと思いました。実は新生児や乳児の訪問をしまして、下の子が出来た時に上の子がとる行動が他動や保育園の保母さんの扱いづらさが問題になり、発達障害と診断されようとしていました。しかし母親はそう思っていない状態でした。母が求めているのは自分の思いを受け止めて欲しいというところだったようです。しかしこの家族には支援が必要だとは思いましたが、今日お話を聞いた診断だけが先になっているな一と思いました。今日のお話を聞いて少しホッとしました。
- 専門的知識にとらわれずその人をよく見ること。その人の困り感と向き合うことを改めて大切にしたいと思いました。色々な職種の人達とも話し合いが持てたことも、とても良かったです。「過去を変えられないが、未来は変えられる」ということも印象深かったです。
- 色々な職種の方々との研修会・ディスカッションは有意義であった。具体的な支援のあり方についてももう少しお聞きしたかったです。
- 児童養護施設の職員です。乳幼児期に基本的信頼を得ることができなかった場合、その後の育て直しの部分についての話でやり直すチャンスがある・・・というお話がありました。そのことを信じて日々の仕事を着実に子どもと向き合っていこうとあらためて思いました。過去は変えられないが未来は変えられる。八木先生のお話はたいへん勉強になりました。
- 初めてお話を聞きしました。とてもわかりやすい内容でした。ありがとうございました。今回発達障害という言葉に興味をひかれ参加しました。発達障害にはやはり生育と環境が関係しているということを改めて納得できたお話でした。発達障害的な児童が増えつつあるような気がします。学校の中で、学級の中で、今後どのような対応をしていくことが望ましいのか、悩むところがあります。
- 聞きたい話、知りたいことが聞けてとても良かった。これまでの講演で最もピタッとききました。(先生)岩手県から離れないでいただきたい。愛着障害のストレンジシュチュエーションというD型の早期発見が重要だと指摘されているが、その方法論を知りたい。

- ・ 非常に分かりやすい講演内容だった。「生きづらさを抱えた人々」がどのような問題や背景を抱えているのか、理解を深めることができた。支援していく上で非常に参考になった。また自分自身の人生観を考え直す機会ともなった。ありがとうございました。
- ・ 「発達障害」の概念の流れを、もう少し丁寧な説明があった方がよいと思われた。学校の教員が多く、今は学校側が診断を強要するケースが多い現状であるので。「愛着がない」という表現は良くなく、愛着の質の問題として表現してもらいたい。
- ・ とても分かりやすく講義を受けました。環境からの発達障害、遺伝的発達障害。犯罪を犯した人が社会で支援を受けやすい為、発達障害というものが付いていないのか？ 確かに離婚率が多い犯罪者の中のパーセンテージで、そういう家庭が多いということかもしれませんが、私はジェンダーでのカウンセリングでは、決して母子家庭だから、そういうパーセンテージが高いとは言われたい・・・と習いました。まだまだ母子家庭の子だからとか、発達障害の子だからとか・・・見る向きが多いように感じられました。先生の講演の中でもその辺の所の配慮にかけたのではないのでしょうか？虐待も愛着のある養育者がいる事で、成長に変化がある。未来を変えて、変えられる。。と話して頂いた事で、そこでやっと良い講義だったな・・・と最後に感じました。
- ・ 子どもの発達にとっての家庭環境・社会環境の重要性を専門家や当事者だけでなく、社会全体の共通認識として持つことが必要だと感じました。大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ 理論的な背景に基づく各種課題について、現場の経験や研究をふまえた講義で、とても勉強になりました。対応の実際やポイントについて、もう少し詳しくお聞きしたかったです。例えば刑務所内でのケアの実際、社会的養護のあり方、“いいしがらみ”を社会のシステムとして作っていく方法。予後の善し悪しについての影響因なども知りたかったです。
- ・ 母親と子どもを見守る仕事をしています。今の世の中の不安定さがそのまま母と子におおいかぶさっている感じがします。いつ、どのように、どこで、誰が、、、というのではなく、今回の講話を受けた中で、私がやれる所、関係者の方々とやれる所をいろいろ感じ、再認識したところです。たくさんの方々に聞いていただきたいと思うほど、とても良い講演をありがとうございました。また他の職種の方々とお話できたのも良かったです。
- ・ 講演を聞かせていただき、今まではどうしようもないと考えていた生育歴の問題について

て「過去は変えられないが、未来は変えられる」「育ち直しはできる」という考えを持って関わっていけば良いということが分かり、今後に活かしていこうと思いました。グループワークでも「子どもは必ず成長する存在である」という話を聞き、その視点を持って関わっていきたいと思います。とても勉強になった講演会でした。

以上42名の感想でした。

ありがとうございました。